

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

これからの時代を担う子どもたちに必要な能力としてOECDが定義付けている「キー・コンピテンシー、つまり、主要能力〔単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力（具体的には、①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する力、②多様な社会グループにおける人間関係形成能力、③自立（律）的に行動する能力）〕及びその考え方を先取りして定められたとも言える学習指導要領において示されている「生きる力」の重要性を踏まえ、校訓「自主自立・共生・創造」のもと、総合学科の特色を生かして、自己を見つめなおし志を持って自己を実現できる生徒を育成する。具体的にめざす事柄としては、以下の4点である。

- ・キャリア教育を通して、将来社会の一員として活躍しようとする姿勢の育成
- ・生徒の希望する進路や興味・関心に応え、基礎的な学力を定着・伸長させるとともに、将来を考えて積極的に選択できる選択科目とカリキュラムの設定
- ・生徒自らが主体性を持って思考し判断し、自分の考えを表現・発表できる授業の実現
- ・人間関係を豊かにし、多様な人々の立場の違いを認め合い、協働して学び合いながら実社会に参画・貢献しようとする態度の育成

2 中期的目標

1 生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、「わかる授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善に取り組む。
ア 平成 25 年度に設置した「授業力向上プロジェクトチーム」を核として、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、主体性を持って多様な人々と協力して学ぶことのできる「アクティブ・ラーニング」へと授業の質的な転換をめざし、「言語活動の充実」「グループワーク」「ICT活用」「反転学習」等を意識しながら授業改善についての研究を進める。
※第 2 回目の授業アンケートの全校・全教員共通の質問項目の肯定率が 2 項目とも 70% を切る授業の延べ講座数（平成 28 年度延べ 55 講座）を毎年引き下げ、平成 31 年度のアンケートでは 20 講座以下にする。
※生徒向け学校教育自己診断における「授業満足度」（平成 28 年度 67.1%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には 75% 以上にする。
- (2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組みを推進する。
ア 「学習カレンダー」「朝の学習」等、これまでに取り組んできた事柄を充実させるとともに、他校の実践に学びながら、効果のある新たな取組みを検討する。
※生徒向け学校教育自己診断における「家庭での学習時間の充実度」（平成 28 年度 48.8%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には 65% 以上にする。

2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実

- (1) 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等の内容とその成果を吟味し、キャリア教育の体系的な全体指導計画をより一層効果のあるものにする。
ア 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を核にして、キャリア教育の体系的な全体指導計画をより一層効果のあるものにする。
※生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育に関する充実度」（平成 28 年度 78.8%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には 90% 以上にする。
イ グローバル人材の育成に資するため、平成 26 年度以降の入学生については、海外修学旅行の推進を継続する。また、国際交流や語学研修を継続し、生徒にグローバルな視点や姿勢を身につけさせる。
※「海外修学旅行の満足度」に関する生徒向け・保護者向けアンケートを実施し、平成 28 年度以降ともに肯定率 90% 以上を維持する。
- (2) 科目選択ガイダンス機能を充実させ、科目選択のミスマッチを少なくし、進路希望と学力に応じた科目選択が実現できるようにする。
ア 教務部と進路指導部と担任団の連携を強化し、科目選択ガイダンス機能を充実させる。
※生徒向け学校教育自己診断における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」「科目選択の進路希望との適合状況」の肯定率（平成 28 年度それぞれ 63.3% 67.0%）を毎年引き上げ、平成 31 年度にはともに 80% 以上にする。
- (3) 確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する 3 年間の全体計画を充実させる。
ア 進路指導に関する 3 年間の全体計画を充実させるとともに、生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。
※学校教育自己診断における「進路指導に関する満足度」（平成 28 年度生徒 62.9% 保護者 58.7%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には生徒・保護者ともに 77% 以上にする。
※国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、過去の連続 3 年間平均の最大値〔102 名〕以上をめざすと同時に、センター試験出願者数について、過去の連続 3 年間平均の最大値〔129 名〕以上をめざす。
- (4) 部活動に関して、充実を図り、生徒の人的成長に寄与できるようにするとともに、生徒の進路実現にも繋げられるよう、より一層活性化させる。
ア 部活動への参加の促進を図り、活動内容をより一層充実させるとともに、部活動を継続することの大切さを生徒に体得させる。
※新入学生徒の「部活動への加入率」（平成 28 年度入学生徒 77.0%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には 87% 以上にし、平成 28 年度以降、恒常的に新入学生徒の退部率を 5% 以下に保つ。

3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底

- (1) いじめをはじめとする人権侵害事象が起こらないよう、すべての教育活動を通じて、生命や人権を大切にす精神を徹底する。
ア 平成 25 年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。
※アンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」をより一層有効活用し、いじめ事象（それに準ずる事象を含む）発生件数を 0 にする。
- (2) カウンセリングマインドを伴った生徒指導を徹底し、安全・安心で居心地のよい学校環境づくりを推進する。
ア 共生推進教室をめぐる取組みを充実させるとともに、知的障がいや発達障がいはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握に関する研修を行い、「合理的配慮」を意識して、生徒に対してよりきめ細かい対応ができる体制を構築する。
イ より一層、教育相談室や SC の存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。
※学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」（平成 28 年度生徒 62.0% 保護者 59.3%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には生徒・保護者ともに 77% 以上にする。
- (3) 遅刻を減らし、安定した生活リズムで学校生活を送れるようにするとともに、挨拶・服装・貴重品管理等を含め、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。
ア 他校の実践に学ぶなどして、効果のある新たな取組みを導入し、学校全体で遅刻減少のムードをつくる。
※年間延べ遅刻者数（平成 28 年度 2,344 件）を毎年引き下げ、平成 31 年度には 1,000 件以下にする。
イ 挨拶・服装・貴重品管理等を含め、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。
※生徒向け学校教育自己診断における「貴重品等自己管理意識度」（平成 28 年度 63.0%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には 80% 以上にする。

4 広報活動の充実

- (1) 中学生や中学校、教育産業等に対して、総合学科のよさや学校の日常の教育活動を広報するための取組みを強化する。
ア 平成 25 年度に創刊した、タイムリーなニュースを満載した新しい広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて年 2 回ずつ継続発刊する。
イ 生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実を図り、参加者数の維持・増加をめざす。
※生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会への参加者数の合計（平成 25 年度約 1,200 名、平成 26 年度約 1,240 名、平成 28 年度約 1,070 名）を、恒常的に、1,100（1,000+100）名以上に保つ。
※志願倍率（平成 28 年度前期選抜 1.57 倍、平成 28 年度一般選抜 1.22 倍、平成 29 年度選抜 1.13 倍）を、恒常的に 1.20 倍以上に保つ。

5 計画的な備品等の更新

- (1) 新たな取組みに必要な備品等や老朽化してきた備品等を計画的に更新していく。

全項目の推進・充実によって

◆全員進級・全員卒業

入学した生徒すべてが、学校生活に困ることなく、安全・安心で居心地のよい学校生活を過ごし、希望する進路を実現して、卒業できるようにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>今年度より一部の設問を削除し、いじめ関係の項目を追加した。全体的な傾向として保護者、教員には大きな変化は見られないが、生徒の肯定率が下降している。特に、3年生は上昇しているのに対して1・2年生が下降しており、特に1年生の下降が顕著で、詳しく分析する必要がある。3年生と1・2年生は入学者選抜の方法が異なり、それも一因と考えられる。</p> <p>○高校生活全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「芦間高校での高校生活に満足している。」の肯定率は、生徒が78.6%、と昨年度より6ポイント下降した。特に1年生の生徒が20ポイント近く下降し、原因を探っている。 <p>○授業をはじめとする教科指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業は、分かりやすく、内容が充実している。」の肯定率は、生徒は61.7%、とやはり5ポイント下降した。3年生は8ポイント上昇しているのに対して、1年生で10ポイント、2年生では13ポイント下降している。 生徒の「家庭学習の充実度」は生徒は若干減少、保護者は若干増加となっているが、やはり3年生は大幅に増加し、1・2年生が減少している。 「指導方法の工夫・改善」について、教員の肯定率が上昇しているが、生徒の満足度にはつながらず、生徒の傾向の違いを認識し、さらな工夫が必要と考えられる。 <p>○科目選択について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「科目選択の指導は、きめ細かく適切に行われている。」の肯定率は、2年生が20ポイント近く下降している。カリキュラム上は多くの選択科目があるが、それぞれの興味、関心、進路に合わせた選択となっていない可能性がある。教員配置も含めて改善を行う必要がある。 総合学科の利点である「選択科目が多く、それらを自分で選べる」ところをさらに生かしていくため、満足のできる選択指導へ向けての改善点を探る必要がある。 <p>○進路指導やキャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校は、「産業社会と人間」を核として、キャリア教育の推進に力を注いでおり、『産業社会と人間』や『総合的な学習の時間』の授業を通して、自分の適性や将来についてよく考えるようになった。」は重点項目の一つである。しかし、生徒の肯定率は65.9%と昨年度より各学年とも下降しており、充実に向けて計画を見直す必要がある。 「芦間高校の進路指導には満足している。」の肯定率は、3年生でも大幅な減少が見られる。現時点での3年生の進路決定状況は前年を上回っており、満足できない部分がどの部分かを探る必要がある。 「家庭との意思疎通」は、昨年度より上昇しており、今後とも、家庭との連携を密にし、協力して指導を行っていく。 <p>○生徒指導、教育相談、人権教育等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生徒指導の方針は理解できる。」の保護者の肯定率は、昨年度は学年により異なる傾向となっていたが、今年度はほとんど差がない状況となっている。保護者集会等で、学年の状況を伝えることによって理解が得られたようである。 学校行事については、相変わらず高い肯定率となっており、生徒会を中心に、学校行事は充実しているものと考えられる。 「担任の先生以外にも、保健室や相談室等で気軽に相談することができることを知っている。」の肯定率は、2・3年生は昨年度とあまり変わらないが、1年生は減少している。相談しやすい状況をアピールする必要がある。 「先生は、生徒の意見をよく聞いてくれる。」の肯定率は、教職員と生徒との間に大幅な開きがあり、生徒が受け入れやすい指導に工夫が必要である。 今年度から新たに加えた「いじめ」に関しては、生徒、保護者とも「わからない」と言う答えが最も多く、肯定的な意見も多かった、少ないながらも「そう思わない」と答えた生徒に目を向けておく必要がある。 	<p>第1回 (H29.07.18) 授業見学の後、授業改善と学校経営計画について協議を行った。</p> <p>[1] 授業改善に向けての取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校ではいい授業の3つのポイントがある。1つ目は、知識、理解を丁寧に教え、未分化な部分にルートを付けるということ。2つ目は、ドリル型で、確認、定着を行うこと。3つ目は、AL型。形だけで入らず積み上げで培われた力を授業の中で定着させるということ。各学校で実態に合わせた目標を設定し、教育計画を作成することが重要。 学校の授業は入試に関係なくなると授業を聞かなくなる。入試を意識した授業であれば生徒は聞くと聞くと思う。 子供にとって視覚化、焦点化し、見通しを持たせる授業づくりが大切。陶芸の授業では、自然に行われていた。共有することで「深い学び」につながっている。 <p>[2] 平成29年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ」についての記載がある。知らない人にも挨拶してくれると印象が良い。推進してほしい。 全国学力学習状況調査と学校の規律との相関は高い。 芦間に進む生徒は、美術、看護など「・・・たい」と思っている生徒が多い。将来を選び取る点という点から「産社」「総学」に力を入れてほしい。 「自分が決めた選択科目・・・」とあるが、それが自己実現に結びついている。将来につながる学習が総合学科の魅力になっている。 「産社」「総学」における発表を通して生徒は学習している。発表に至るプロセス、経験が社会へ出て求められる力につながる。 <p>第2回 (H29.11.18) オープンスクールの見学の後、学校経営計画の進捗状況とオープンスクール（広報）について協議を行った。</p> <p>[1] 平成29年度学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「肯定率が70%を切る授業を減らせる」ということだが、肯定率が低くてもまずくないということもある。本質的な課題を考えよう。授業によって異なる肯定率を考えてもいいのではないかと。実験的な授業では肯定率を考えない方がチャレンジしやすい。 肯定と言う点では生徒たちは自分の学力に見合ったところでほどこわられる場合に高くなる。意欲を掻き立てるような授業と同じ基準と言うのは総合学科としていかなものか。生徒の評価をどう見極めるかは大切なこと。 「家庭の学習時間」については時間だけでなく内容も大事になる。「家庭での学習」「授業の予習・復習」「授業で主体的に協働的に学ぼうとしている」「キャリア教育」等との連動性について研究してほしい。 勉強とクラブ活動が両立している学校の方が良いように思う。 アルバイトをするとは本当に勉強できなくなるので、その点を強く言ってもらいたい。本当のところどれだけのお金が必要で、3年間で貯めていかなければならないのであればどれだけのことをしなければいけないかということを具体的に示してあげるのがいい。生徒は、最初は、お金を貯めなければいけないということでアルバイトを始めるが、貯めなければいけない以上に稼ぐことで、携帯代など関係のないところで使うようになり、その分勉強する時間が削られる。入学時に必要なお金だけ確保するというふう丁寧に話をあげてほしい。 <p>[2] 第2回オープンスクールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 校歌の「自分の色彩で・・・」とある。音楽や映像は五感に訴える。雰囲気は伝わるので流せばよい。 生徒会執行部をはじめ生徒の頑張りを見せることは良いことである。 <p>第3回 (H30.02.09)</p> <p>[1] 平成29年度学校評価（学校経営計画の達成状況）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校教育自己診断」重点目標に対するアンケートを行うのであれば、発問を変えた方がよい。たとえば、「あなたは自ら考えようとしたか」「あなたは発表する場面で積極的に発表しましたか」「友達と意見を交流することによって学びは深くなりましたか」「先生はそういう場を設定していましたか」というものに変えると、先生は、必然的にそういう場面を設定する授業に変えていかなければならなくなる。 選択科目がたくさんあって自分たちの学びたい気持ちがかねえられるのが、総合学科であるという思いはすごくある。取りたいものと進路が重なるような選択ができればより満足度は上がると思う。 学校の満足度が下がっているようだが、1年生の数値が2年生になったときに上がっていれば、芦間の良さに気付いてくれたということになる。 施設・設備について、府の予算では難しいところはある。PTAの予算の中で、計画的に使っていただけたらいいと思う。後援会でも協力する。 教育相談の部分について、カウンセラーが月に1回ということでは、相談も十分にはできない。もう少し予算を付けてほしい。 <p>[2] 平成30年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> どうすれば記憶に残るかということ、「聞くだけ」は2.5%、「書く」と15%、最も記憶に残るのは「自分が人に伝えて共有する」ということであると聞いている。残したいのであれば、それを使って誰かに説明したり、文章にしたりすることが定着につながる。 社会で仕事をしていると、数学や英語より社会科が重要となってくる。生きていく上では学力を身に付ける必要がある。 <p>[3] 校則について（学校生活における諸注意）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒はどこまで許されるかというところを見ているので指導をお願いする。 指導が無くなると「いいのかな」と思うところがある。また、人によってはかまってもらってないと感じることもあるようであるので続けてほしい。

府立芦間高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	<p>(1) 管理職と教員が一体となり「わかる授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざして取り組む。</p> <p>ア 「授業力向上PT」を核に「アクティブ・ラーニング(AL)」へと質的な転換をめざした研究授業等の実施</p> <p>イ 授業アンケートを活用した授業改善の取組み</p> <p>(2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組みの推進</p> <p>ウ 「学習カレンダー」「朝の学習」等これまでの実績を含めた効果のある取組みの確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業力向上に関する校内研修を実施するとともに、ALの先進実践校を視察する。また、各教科において、「AL推進者」を設け、ALを推進する。</p> <p>・府教育Cの支援も受けながら、各教科が、「わかる授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をテーマとし、ALへと質的な転換をめざした研究授業に取り組む。</p> <p>イ・各教科が、授業アンケート結果に基づき、課題の分析、課題解決のための改善策の構築、その改善策の効果の検証を行い、HP等で公開する。課題解決のための改善策としては、「①言語活動の充実」「②グループワーク」「③ICT活用」「④反転学習」等を取り入れる。</p> <p>・校長・教頭は授業観察の結果を教員にフィードバックし、「わかる授業」確立のための指導助言を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ウ・学校経営委員会において、他校の実践についての情報を得ながら、家庭での学習習慣を身に付けさせるための効果的な取組みを引き続き検討する。</p> <p>・「学習カレンダー」「朝の学習」は各学年が確実に実施する。</p> <p>・学校独自に「勉強に関するアンケート」を実施・分析し生徒の家庭学習時間増へつなげる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・校内研修を1回以上実施。また、ALの先進実践校を1校以上視察。</p> <p>・生徒向け自己診断における「授業満足度」70%以上(平成28年度67.1%)。</p> <p>イ・全常勤教員が左の①②③④のいずれかを取り入れた取組みを少なくとも1回実施し、それをHPで公開。</p> <p>・第2回目授業アンケートの「全校・全教員共通質問項目」の肯定率が2項目ともに70%を切る授業の延べ講座数40講座以下(平成28年度47講座)。</p> <p>・第2回目授業アンケートの「質問項目3～9の評価の平均値」の全教員平均3.22以上(平成28年度3.14)。</p> <p>(2)</p> <p>ウ・他校の効果的な取組みの情報収集を3校以上行い、家庭学習の充実に関するより一層の改善策を構築する。</p> <p>・「学習カレンダー」「朝の学習」を各学年で実施。「朝の学習」は、1・2年で週2回以上実施、3年で週1回以上実施。</p> <p>・生徒向け自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する2項目」の肯定率の平均58%以上(平成28年度55.8%)。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・校内研修を1回実施済〔講師：府教C指導主事等〕。(○)</p> <p>・生徒向け自己診断における「授業満足度」62.9%(△)。</p> <p>イ・ほぼ全常勤教員が改善に向けての取組みを実施。(○)</p> <p>・HPで公開はできず(△)</p> <p>・第2回目授業アンケートの「全校・全教員共通質問項目」の肯定率が2項目ともに70%を切る授業の延べ講座数69講座(内教諭54講座)。(△)</p> <p>・第2回目授業アンケートの「質問項目3～9の評価の平均値」の全教員平均3.18。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ウ・3校の効果的な取組みの情報収集(○)</p> <p>・「朝の学習」は、各学年週2回実施。(◎)</p> <p>・生徒向け自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する項目」の肯定率の平均43%(△)</p>
2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確かな進路実現につながる進路指導の充実	<p>(1)「産社」や「総学」等、キャリア教育の体系的な全体指導計画の充実</p> <p>ア より一層効果のある全体指導計画の検討・再構築</p> <p>イ グローバル人材育成のための海外修学旅行や国際交流推進</p> <p>(2) 科目選択ガイダンス機能の充実</p> <p>ウ 教務部と進路指導部と担任団の連携の強化</p> <p>(3) 進路指導の全体計画の充実、保護者との密な連携</p> <p>エ 進路指導の全体計画の充実</p> <p>オ 家庭と学校との密な連携</p> <p>カ 生徒・保護者の希望やニーズに沿った進路実現</p> <p>(4) 生徒の人的成長や進路実現に繋がる部活動の充実・活性化</p> <p>キ 部活動への参加の促進及び活動の継続の推進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・体系的な計画を検討するための組織の機能を充実させ、学習意欲の向上や進路意識の高揚、科目選択の充実確実に繋がる「産社」「総学」のより一層効果のある全体指導計画を検討し再構築する。</p> <p>イ・平成29年度以降入学生についても、海外修学旅行や国際交流の推進を継続する。</p> <p>(2)</p> <p>ウ・科目選択の指導において、生徒や保護者が満足するよう、きめ細かく丁寧に指導する。</p> <p>・教務部と進路指導部と担任団の連携の強化により、自分が決めた選択科目(時間割)に対して生徒が自信と愛着をもてるようにする。</p> <p>(3)</p> <p>エ・確かな進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する3年間の全体計画を充実させる。また、多様な進路先を確保できるよう努める。</p> <p>オ・生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。</p> <p>カ・進路指導システム「ASMサポートシステム」をより一層充実させる。</p> <p>(4)</p> <p>キ・部活動への参加を促進し、継続することの大切さを体得させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育の充実に関する2項目」の肯定率の平均83%以上(平成28年度81.8%)。</p> <p>イ・「海外修学旅行の満足度」に関するアンケートを実施、実施学年の生徒90%以上。(平成28年度97.3%)</p> <p>(2)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率70%以上(平成28年度69.6%)。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「科目選択の進路希望との適合状況」の肯定率75%以上(平成28年度72.1%)。</p> <p>(3)</p> <p>エ・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」生徒・保護者ともに67%以上(平成28年度生徒65.1%保護者63.3%)。</p> <p>オ・保護者向け学校教育自己診断における「進路指導面での家庭との連携のきめ細かさ」の肯定率55%以上(平成28年度50.2%)。</p> <p>カ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、過去の連続3年間平均の最大値〔102名〕以上。</p> <p>・センター試験出願者数について、過去の連続3年間平均の最大値〔128名〕以上。</p> <p>(4)</p> <p>キ・新入学生徒の「部活動への加入率」80%以上(平成28年度76.0%)、退部率5%以下。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育の充実に関する項目」の肯定率の66%(△)</p> <p>イ・修学旅行 台湾10月25日～28日 満足度96%(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率58.4%(△)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における「科目選択」の肯定率76.6%(○)</p> <p>(3)</p> <p>エ・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」生徒52.5%保護者59.1%(△)</p> <p>オ・保護者向け学校教育自己診断における「家庭との連携」の肯定率59.2%(○)</p> <p>カ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計119名。(◎)</p> <p>・センター試験出願者数133名。(◎)</p> <p>(4)</p> <p>キ・新入学生徒の「部活動への加入率」73%。(平成28年度76.0%)(△)</p>

府立芦間高等学校

<p>3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底</p>	<p>(1) 生命や人権を大切にす精神の徹底 ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた学校運営 (2) カウンセリングマインドの徹底等、安全で安心な居心地のよい環境づくり イ 生徒の「困り感」の把握の徹底等、「合理的配慮」を意識したきめ細かい対応ができる体制づくり ウ 相談室の存在の周知等、教育相談機能全般の充実 (3) 遅刻減少等、生活規律・自己管理の力の向上 エ 効果のある新たな遅刻対策の導入 オ 挨拶・服装・貴重品管理等、生徒の生活規律・自己管理の力の向上</p>	<p>(1) ア・平成25年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。 (2) イ・校内研修を行い、「合理的配慮」を意識して、障がいのある生徒をはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握や解決により一層尽力する。 ウ・より一層、教育相談室やSCの存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。 (3) エ・遅刻減少対策について、他校の実践の情報収集をするなどして、効果的な取組みを引き続き検討する。 オ・挨拶・服装・貴重品管理等を含め、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。</p>	<p>(1) ア・教育相談担当者会議と連携して、校内で啓発に資する取組みを実施。 (2) イ・校内研修を1回以上実施。(平成28年度2回) ・「合理的配慮」を意識して、特別支援教育委員会の機能を充実させ、年間5回以上会議を開催。(平成28年度5回) ウ・外部人材活用(SC等)の拡充に向けた具体的な検討の進捗状況。 ・学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」生徒・保護者ともに68%以上(平成28年度生徒67.8%保護者62.9%) (3) エ・生徒会等、生徒自らが企画する、遅刻減少に向けた取組みの実施。(学期に1回) ・年間延べ遅刻者数2,000件以下(平成28年度2,831件)。 オ・生徒向け学校教育自己診断における「貴重品等自己管理意識度」85%以上(平成28年度80.5%)。</p>	<p>(1) ア・安全安心アンケートで問題となる事案はなかった。(○) ・教育センター指導主事を招いて「いじめ」についての研修実施。(○) (2) イ・8月に臨床心理士を講師として招聘し研修を実施済。(○) ・特別支援教育委員会を6回開催済。(○) ウ・SCの活用によりケース会議を実施。(○) ・学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」生徒62%保護者54.7%(△) (3) 遅刻者数 エ・生徒会を中心に遅刻減少の取組み「おはよう運動」を実施。(○) ・2658件で、昨年比173件減。(○) オ・生徒向け学校教育自己診断における「貴重品等自己管理意識度」は項目削除(△)</p>
<p>4 広報活動の充実</p>	<p>(1) 総合学科のよさや学校の日常の教育活動の広報の強化 ア タイムリーなニュース満載の新広報誌の年2回継続発刊 イ オープンスクール等や中学校等教員対象説明会の内容の充実 ウ 学校ホームページでタイムリーなニュースの提供</p>	<p>(1) ア・平成25年度に創刊した、タイムリーなニュースを満載した新しい広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて年2回ずつ継続発刊する。 イ・生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実を図る。 ウ・常に最新の情報をHP上で提供し、芦間高校への関心を高める。</p>	<p>(1) ア・新しい広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて年2回発刊。(平成28年度2回) イ・生徒・保護者対象のオープンスクールや学校説明会への参加者数の合計1,100名以上(平成26年度約1,240名、平成28年度約1,070名)。 ・オープンスクールや学校説明会への参加者を対象としてアンケートを実施し、肯定的回答95%以上。(平成28年度98.5%) ・中学校や塾の教員対象の学校説明会の内容の充実と参加者数の維持・増加(平成28年度中学校教員約45名、塾教員約35名)。 ウ ホームページ毎日更新(平成28年度に引き続き)。 ・志願倍率1.20倍(平成29年度一般選抜1.13倍)。</p>	<p>(1) ア・5年ぶりに学校案内リーフレットを刷新。「芦間ニュース」を2回発刊(○) イ・オープンスクール・学校説明会への参加1200名以上(○) ・オープンスクールへの参加者を対象としてアンケートを実施し、「芦間高校の印象」に対する肯定的回答100%(○) ・中学校教員対象の学校説明会17名、塾教員対象の学校説明会15名(△) ウ ホームページ毎日更新には至らず。(△)</p>
<p>充実によって</p>	<p>◆全員進級・全員卒業</p>	<p>◆入学した生徒すべてが、安全・安心で居心地のよい学校生活を過ごし、進級・卒業できるようにする。</p>	<p>◆在校生の全員進級・全員卒業</p>	<p>◆転学者5名、退学者1名(△)</p>